

『啄木のふるさと』『もりおかの短歌』

平成二十年度 夏の部 優秀賞発表

優秀賞 十首

『啄木のふるさと』『もりおかの短歌』は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち』もりおか』を推進することを目的に本年度より実施している事業です。

年間を4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。初めての募集となった夏の部は8

月で終了、観光客や市民の方々から多くの短歌が投稿され、この度優秀賞10首が選定されました。

投稿箱は、当所や盛岡市役所、啄木関連の観光施設、市内ホテルなどに設置しており、現在は秋の部を募集しておりますので、啄木になった気分で行書きの短歌に一度挑戦してみたいかがですか。

ね 寝ころびし十五の人に心馳す
椽の実の降る
不來方の城

東京都板橋区 飛岡 光枝

もりおか 盛岡にそよぐ秋風
めつむ 目瞑れば
はらはらと散る一本桜

千葉県市川市 福田かしこ

たくほく 啄木のふるさとなれば
かわた 川も田も風の匂ひも
なべてなつかし

東京都小平市 清水 克江

ゆうだい 雄大な岩手のお山に
さうしゅう 郷愁と活力もらう
もりおかの道

宮城県仙台市 平山 智子

こずかた 不來方の城に登りて空見れば
かたひとも見し
雲の流れかな

東京都西東京市 石川 寛子

「どこから来た」「もう帰るのか」
たくほく 啄木の部屋に長居し
かれこえ 彼の声きく

京都府京都市 小坂純一郎

たくほく 啄木の「新婚の家」に佇んで
つまおも 妻を思い出す
いわてひとり 岩手一人旅

兵庫県神戸市 石川 晴朗

ドンドコと
きたみやこ 北の都に鳴り響く
おど さんさ踊りに我も高ぶる

千葉県長生郡 江澤 完誠

たくほく 啄木が落葉を踏みし道に来て
あおみ 椽の青き実
ひろ ひとつ拾えり

岡山県新見市 本近 和子

ましかど 街角は
ゆくひと ゆく人の目もどこか楽しげ

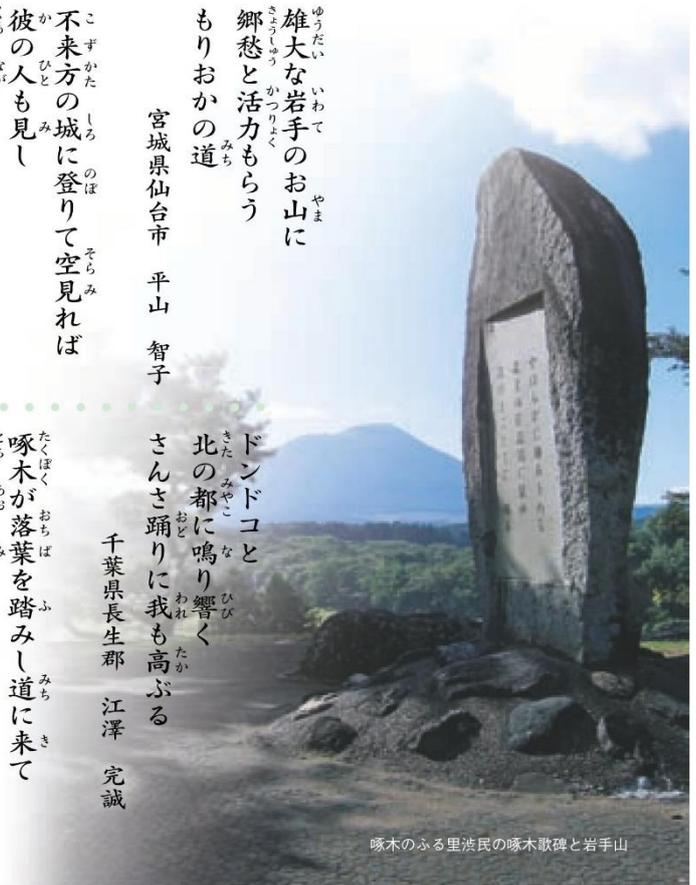
宮城県仙台市 平山 陽子

平成二十年夏の部
投稿数 百十六首

選者 柏崎 駿二氏



市内ホテル等に設置されている投稿ボックス



啄木のふるさと里波民の啄木歌碑と岩手山

『啄木のふるさと』もりおかの短歌

夏の部 優秀賞発表

『啄木のふるさと』『もりおかの短歌』は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に実施しているこの事業も2年目を迎えました。年間を四つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。6月から8月まで募集した夏の部には観光客や市民の方々から多くの短歌が投稿され、この度優秀賞10首が選定されました。

投稿箱は、当所や盛岡市役所、啄木関連の観光施設、市内ホテルなどに設置しており、現在は秋の部を募集しておりますので、啄木になった気分で行書きの短歌に一度挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。

夏の部優秀賞十首

思いこめて
啄木が詠いし岩手山
裾野どつしり我を迎える

東京都板橋区 阿部美保子

新幹線
右にカーブを切る先に
空を圧して岩手山在り
宮城県仙台市 阿部 堅市

やわらかき稲穂の風が
啄木の
母校の窓を吹きわたりゆく
茨城県久慈郡 高梨 とし

盛岡を去ってゆくとき
啄木も
この大空を見上げただろう
茨城県桜川市 島田 瞳

砂浜に
君の名前を書いてから
つかんでみたけどすぐにこぼれた
茨城県桜川市 増淵 絵理

となりにて
君の前髪木漏れ日と
同じリズムで揺れている幸
岩手県岩手郡 岩井 紗智

啄木の新婚の家に
寝ころべば
水無月の風に二人の声かす
神奈川県横浜市 牛島 芳一

啄木に
思いを馳せる空の下
隣で吾子がそつと微笑む
徳島県名西郡 横島 和美

北上の
川岸の萩の枝長く
秋をいざなうごとく揺れいる
茨城県龍ヶ崎市 岡田 進

中津川
涼しき木陰の散歩道
ふつと感じる歴史の匂い
岩手県盛岡市 細矢 江里

平成二十一年夏の部
投稿数 百九十八首

選者 柏崎 駿二氏



啄木のふるさと『もりおかの短歌』

夏の部 優秀賞発表

啄木のふるさと『もりおかの短歌』は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に実施、今年で3年目を迎えました。

年間を四つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。6月から8月まで募集した夏の部には観光客や市民の方々から多くの短歌が投稿され、この度優秀賞10首が選定されました。

投稿箱は、当所や啄木関連の観光施設、市内ホテルなどに設置しており、現在は秋の部を募集しておりますので、啄木になった気分で行書きの短歌に一度挑戦してみたいかかでしょうか。

夏の部優秀賞十首

石垣を
色どる落ち葉はらはらと
今年の記憶鮮やかに積む
岩手県盛岡市 木下 知子

中津川

初夏の風吹く川べりを
ともに歩きし入いまいずこ

東京都練馬区 久慈 博子

みちのくの手づくりたいけん
おもしろい

たくさん入るさらとペン立て

愛知県名古屋市長 大谷 颯

夕暮れて

十六羅漢の裏手より

今日も聞こゆるさんさの太鼓

岩手県盛岡市 鈴木 文子

木々の葉の緑の濃さに誘われて
ふとおとずれた

啄木のいえ

岩手県奥州市 熊谷 知華

帰り来ぬ

夫を待ちいる佳人に似て
ひそやかに咲くぎぼうしの花

栃木県鹿沼市 藪 みのり

岩手山望みて思ふ

あの山は

啄木の見し山我も見し山

千葉県館山市 三平 智子

夕暮れに

ふと立ち止まりふり向けば
息吹き感じる古き街並み

和歌山県和歌山市 加藤 淳一

新しき明日を信ずる啄木の
夢の一つか

さんさ踊りは

神奈川県横浜市 牛島 芳一

烈しさもまた美しさ

静岡県静岡市 山下 奈美

夏の夜に
五色の帯の散れる輪踊り

平成二十二年九月選 夏の部
投稿数 二百十四首

選者 柏崎 駿二氏



夏の部優秀賞十首

若き日に賢活遊びしとふ
くらかけやま

鞍掛山に

カタクリの花あまた咲きをり

青森県青森市 木浪 みつゑ

北海道の八幡平に

グツと出る

南部片富士の稜線が好き

青森県八戸市 三浦 敬

ふるさとや

えくぼの友を 偲びつ

杜のみやこの 舟つこ流し

東京都新宿区 佐藤 慶子

はい、よいしよ、さあどんどんと

腕の声 盛岡の季

思い出の味

茨城県小美玉市 土井 早苗

ちゃんかちゃんか

馬こ渡ってくる下の橋

賢活兄弟も見さ出はつたと

岩手県盛岡市 小野 泉

耳の奥にまた蘇る

中津川の

河鹿の声の涼しかけり

岩手県盛岡市 小野 泉

水無月の

姫神山の頂で

夫に撮られてよき顔つくる

福島県伊達市 安齋 和子

友の故郷盛岡と知り
たくはく
・木を語り込む宵
青春近し

茨城県行方市 鈴木 節子
すざき せつこ

望郷の丘に佇む
ぼうきやう おか たたず
たくはく ひぐらし
・木と畑を聞く
もりおか なつ
盛岡の夏

岩手県盛岡市 鈴木 充
すざき みつる

さんさの夜
さんさの夜
とどろくたいこち ちから
轟く太鼓地の力
いわて いし さいなん
岩手の意思だ災難に勝つ

岩手県盛岡市 三澤 信裕
みさわ のぶひろ

平成二十三年九月選 夏の部

投稿数 百三十一首

選者 柏崎 驍二氏

夏の部優秀賞十首

青春の歌よみ集う杜のまち

百年後の

啄木になる

山梨県南巨摩郡 田中実

降り注ぐ

トワイライトに照らされし不來方の城

夏は暮れゆく

気仙沼市 佐藤 美侑

啄木がひっそり立つて
るるやうな

不來方城跡 青葉にしずもる

盛岡市 中嶋 富子

鶴飼橋

渡りて五キロ好摩駅

啄木偲び歩みゆきたり

神奈川県湯河原町 三好 美樹

わらんべの掌を取り語る啄木の
像を撫でてゆく

風涼しかり

岐阜県各務原市 星河 ひかる

背に書いた

南無阿弥陀仏の男衆

舟つゝ流しに先祖を送る

盛岡市 花坂 俊子

庭あれし

「新婚の家」に展示さる

琴の悲しも節子の遺品

埼玉県八潮市 新倉 幸子

染^そめた^こた^{あいろ}ての濃^こい藍^{あいろ}色のハンカチで
友^{とも}との思^{おも}い出^で
くる^{かえ}んで帰^{かえ}ろう

宮城県大崎市 加藤 美緒

天^{てん}満^{まん}宮^{くう}

夏^{なつ}の日^ひざしの木^こもれ^こびは

鳥^{とり}居^いの奥^{おく}へと足^{あし}運^{はこ}ばせる

宮城県大崎市 森永 蒼生

中^{なかつ}津^つ川^{がわ}沿^あい歩^{ある}く散^{さん}歩^ぱ道^ち

し^しだ^だれ^れや^やな^なぎ^ぎと

川^{かわ}のせ^せせ^せら^らぎ

宮城県栗原市 鈴木 陽平

〔講評〕啄木にかかわる歌が多くありました。盛岡と啄木という結びつきが定着している
と思われました。また今回は、中学生の短歌が多く寄せられました。修学旅行の生徒たち
と思われまます。列車の先生の指導によるものでしょう。さわやかな短歌が多く、嬉しい思
いでした。

平成二十四年九月選 夏の部

投稿数 二百十二首

選者 柏崎 駿二氏

夏の部優秀賞十首

あふぎ見る若手の山の夏の雲
遠くはなれし
ふるさと恋し

東京都葛飾区 佐治 彰子

啄木と賢活を生んだ
この街のホールの奥で
短歌を詠む君

前橋市 藤生 揚亮

盛岡の街に買ひたる
熊避けの鈴鳴らしつつ
夏の山ゆく

福島県伊達郡 菊地 幸子

まつしろいブラウスみたいな
風の吹く
もりおかはもう夏の気分だ

鎌倉市 大西 久美子

「ひさしぶり」

「よぐきた まんず おぢやこのめ」
もりおか感じる 盆のやりとり

根室市 石川 由佳子

嬉しいな
啄木の故地 盛岡で
短歌詠みでさる僕の心境

石巻市 齊藤 雄紀

群舞する
盛岡さんさ夏の夜
響け轟け天の川まで

盛岡市 昆野 寛顕

しぶたみ
遊民の

そら
空にこだます 啄木の
じゅう うた こうか

自由の歌が校歌となりて

東京都板橋区 山岡 富美

さいご おおなみ おお
ありがとう 最後の大波 大はしやぎ

たの おも て
楽しい思い出

けんじワールド

宮古市 吉田 直

もり ゆ
森の湯の

いわ あか
岩にひらりと赤トンボ

おうしゆく かぜなつ おわ
鶯宿の風夏も終りに

市原市 野村 由美子

〔講評〕よい歌がたくさん寄せられておりうれしく読ませていただきました。盛岡や浜
民の地も、岩手山も、祭りなども、それぞれ新鮮な感覚で把握されておりました。時
代とともに、その土地も人の心も移りゆくことを感じ二選ばせていただきました。

平成二十五年九月選 夏の部

投稿数 百九十九首

選者 柏崎 曉二 氏

夏の部 優秀賞十首

瀬音よき中津川辺の

朝霧に街の家並は

なほも眠れる

神奈川県横浜市 伊藤 修文

つるつると

喉で味わうわんこそば

薬味なくとも味わい深し

群馬県高崎市 金子 瑞紀

ふるさとのよさを素直に語る君

胸あたたまる

盛岡の旅

群馬県前橋市 藤生 揚亮

我が県のチームの審査

手を握る

短歌大会ならではの汗

群馬県前橋市 藤生 揚亮

もりおかの涼しき風と

紫波城の古代のすがた

肌で感じる

神奈川県横浜市 貞松 大樹

不来方の

お城のベンチに寝ころびて

タブレット操る老人のあり

広島県安芸郡熊野町 仕切 晴治

わが夫に

届けておくれ 涼風を

駅前に立つ シダレカツラよ

東京都中野区 今井 貨預

啄木と節子も たくぼく せつこ

渡りたるや知らず わたたり しらず

開運橋をゆっくり渡る かいうんばし わたる

奈良県大和高田市 河野 洋子

街中を流るる川の中津川 まちなか なが ながつがわ

釣り人鮎を つりびとあゆ

釣りたるを見る つり み

大阪府大阪市 吉川 昌子

「ふるさとの…」曲歌つてよ ふるさとの… きょくうた

ソプラノで

あゝ君の郷 岩手だつたね あゝきみ のさと いわて

盛岡市 佐藤 節子

〔講評〕 多くのよい作品が寄せられて喜んでいきます。高校生の作者の短歌にもさわやかな新鮮さを覚えました。盛岡に対して抱く『優しさのイメージ』が多く作品にあらわれていたように思います。

平成二十六年九月選 夏の部

投稿数 百二十五首

選者 柏崎 驍二氏

夏の部 優秀賞十首

いつとても
心の中に古里がありて切なく
枕を濡らす

愛知県半田市 矢浦 詠正

暑き夏さんさ見たしと今年又また

高速走り

妻と来たりし

青森県弘前市 福井 希夫

ラジオから 流れる
ニュースの 盛岡弁
耳かたおけて 心やすらぐ

盛岡市 小松 君子

盛岡の地を踏みしめた
夏の日を忘れることなく
生きてゆきたい

茨城県つくば市 荒井 美咲

啄木もこの丘の上愛したと
聞いてこの地を
もう一度踏む

福岡県福岡市 土師 マリア

一人旅

山の向こうに見る空に

啄木想う一七の我

茨城県土浦市 笠倉 京佳

風鈴が迎えてくれし
啄木の青春刻む
盛岡の街

盛岡市 河野 康夫

不^{こず}来^{かた}方の城の石垣守るがに

石の隙間に

蜥^と蜴^か顔出す

盛岡市 小林 貴史

嬉し気に

さんさの昼練 加わりし

夫^{つま}はすっかり 盛岡の人

東京都中野区 今井 貨預

青葉なる不^{こず}来^{かた}方城の石垣の

弧にヴィオロンの

弓を当てみむ

東京都江東区 藤村 清彦

〔講評〕初めて選者をさせていただきましたが、二百四十四首もの作品が寄せられているのに大変驚きました。どの作品も作者の思いが素直に伝わってくるものばかりで、十首を選ぶのに大変苦労いたしました。

平成二十七年九月選 夏の部

投稿数 二百四十四 首

選者 山本豊

『もりおかの短歌』

夏の部 優秀賞十首

ひとすじに啄木信じ添いとげし
たくぼくしん そ

妻のけなげさ
つま

胸にしみ入る
むね い

長崎県大村市 一瀬 敦子

台風が外れて青空広がりぬ
たいふう そ おおぞらひろ

姫神山が
ひめかみさん

さわやかに見ゆ
み

盛岡市 中島 久光

野老売り寄せ豆腐売りの
のらいりよせとうふうり

声聞いた盛岡の町
こえきいたもりおかまち

青年のころ
せいねん

盛岡市 小林 貴史

不来方の城址めぐり啄木の
こずかたしろあと たくぼく

歌碑を探せり
かひさが

つつじ咲くなか

京都府長岡京市 吉田 正美

故里を詠み続けたる啄木の
ふるさとよめ つづ たくぼく

心に出会う
こころであ

もりおかの旅
たび

青森県三戸郡五戸町 手倉森 真喜子

啄木の生まれし寺の八畳間
たくぼく うちら であ はちじょうま

座れば夏の
すわ なつ

草の香通る
くさかとお

盛岡市 岩館 公子

ふるさとの
いしわり

石割さくら君に見せ
いしわり きみ

町中の寺へ納骨に行く
まちなか であ のうこつ い

福岡県福岡市 六月朔日 光

啄木たくぼくの生まれし土地とちに吹く風かぜの
すがすがしさよ
鳥高とりたかく舞まう

群馬県伊勢崎市 北村 理恵子

やすらかな妻つまの寢息ねいきに書しよを閉とぢて

頤埋おどがひうづむ

もりおかの夜よる

愛媛県新居浜市 菅 伸明

啄木たくぼくの

歌を諳うたじひとりゆく

北上川きたがわの流れながに添そひて

千葉県市川市 長田 強子

〔講評〕岩手や盛岡の自然や風物、また石川啄木や宮沢賢治に対する作者の
想いが素直に表現されていて、情感が読み手にストレートに伝わってくる
歌が多かった。

平成二十八年九月選 夏の部

投稿数 二百三十 首

選者 山本豊

『もりおかの短歌』

夏の部 優秀賞十首

やはらかに

なつ

夏の名残りの雨がふる

おに

鬼が手形を押したる石に

青森県八戸市

木立

徹

青空に

あおぞら

チャグチャグ馬コの鈴響き

あうぜんじんじや

蒼前神社に笑顔の集う

秋田県大仙市

鈴木

仁

啄木の新婚の家

たくぼく

訪ねし日

たずね

いずこともなく風鈴の音

盛岡市

西川

政勝

啄木の妻の

たくぼく

節子が産湯跡

せつこ

岩大内の小さな丸井戸

盛岡市

小林

貴史

もりおかは若き自分に還る町

わか

啄木の歌

たくぼく

口遊みつつ

大船渡市

休石

庄太郎

故郷の香り漂う岩手山

ふるさと

行きも帰りも

い

思い募りて

東京都大田区

折戸

純子

マリオスの展望室に指さして

まリオス

夫は通いし

うらちえんさが

幼稚園探す

東京都府中市

舟越

理絵

笛太鼓練習の音聞えたり

さんさ踊りを

思わず踊る

盛岡市 堀米 公子

七月の風吹く県庁前の道

小さく青い

とちの実ころがる

神奈川県川崎市 太田 恵以子

道聞けば

岩手訛りのやさしくて

ほのぼのとゆく啄木の町

宮城県仙台市 沼沢 修

夏の部（ジュニア部門） 優秀賞一首

山の川釣りをしている少年が

岩魚を釣り上げ

よろこびのまい

東京都板橋区 西野 鈴

【講評】

一般部門

この度も、岩手山、盛岡の街、啄木の新婚の家、チャグチャグ馬コ、さんさ踊り等盛岡の夏の風情に思いを寄せた歌が多かったですね。啄木の妻節子の生家の産湯の井戸が岩手大学構内植物園の中に残っているのは意外に知られておりませんが、応募の中に二首あったことはよい発見でした。

ジュニア部門

山の川で釣りをしている少年。岩魚を釣り上げて小躍りをしているようすを素直に表現した歌で、目に見えるようです。たいへんよいと思います。これからもどんどん作歌して、素晴らしい作品をお示しくください。

平成二十九年九月選 夏の部

投稿数 二百十九 首

選者 八重嶋 勲